

[学長からのメッセージ]

## 「行動する力」の育成について

伊藤 正明（三重大学学長）

現在の世界情勢は、米国一強から欧米や日本を中心とする西側先進国、対抗軸としての中国・ロシアに加え、新興勢力としてグローバルサウスの国々が力をつけてくるなど複雑となり、政治、経済、軍事などの先行きは不透明です。またこれらに加え、グローバル化、AIなどのテクノロジーの進化、環境問題や疫病流行など、現在の社会はさまざまな要素が複雑に絡みあって、その変化が早く、不確実で先の読めない「VUCAの時代」となっています。このような社会に生き、活動していくには、グローバルとローカルの両視点で社会の動きを敏感にとらえ、その本質を理解しながら、各々がおかれている場の様々な課題に向けて、迅速に行動していくことが必要です。このような社会で今後活躍できる人材を育成する点から、今までに積み重ねられた学問を含め新しい知識を常に学び続けられると共に、社会の変化に対応して行動できる能力の育成につながる教育が求められています。

三重大学のディプロマ・ポリシーでは、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」と「生きる力」の4つの力を養成することを目標として、人材育成が行われてきました。現在の複雑かつ変化の速い社会で活躍するには、失敗を恐れず行動して、試行錯誤を繰り返しながら課題を解決していく力が求められています。そこで、三重大学の教育目標であるの4つの力に「行動する力」を加えて、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」と「行動する力」を養い、全体として「生きる力」を育成する内容に、鶴原理事をはじめ教育に携わって頂いている先生方のご協力を頂いて修正させていただきました。社会における様々な事業が、PDCAサイクルやOODAループを回しながら行われていますが、いずれにも“A”すなわちActionやActという言葉が入っています。今回の「行動する力」もこれらのAに相当するものと考えています。今後、この「行動する力」を養成するにあたって、教育の内容をどのようにしていくか、学生さん方の獲得したこの力をどのように評価するかなどについて、引き続き先生方のご協力を頂いてまとめて行かなくてはなりません。どうぞよろしくお願いいたします。

バブル崩壊後の我が国のこの30年間は、国民所得は増加せず、経済的発展に乏しく、株価の上昇もなく、国際競争力や科学技術力も年々低下し、日本全体が自信を失ったように思われる状況です。外国に留学する若い人も減少し、将来に向けた様々な活動に積極的にチャレンジする学生が少なくなってきた様な気がします。わが国で学んだ学生は、国際的に見ても高い学力を有する一方、その学力が国力や経済力、社会のイノベーションに繋がっていない現状もあるように感じています。これまでの大学は座学による学問の習得に力が注がれ、過去の経験から誰もが正解と思える結論に導ける能力の育成に重点が置かれてきました。複雑かつ変化の速い今後の社会では、過去の成功や経験だけから正解を導き出すことが難しく、活動していく上で必要な課題解決に際して、様々な情報を集め、他者ともコミュニケーションしながら、過去になくとも自分なりに正解と思われる新しい考えで、試行錯誤しながら活動しなくてはなりません。このような社会で活躍できる人材育成には、従来の教育に加え、大学の教育に社会を入れて、社会における課題を発見し（「感じる力」）、それを解決するための基盤となる「考える力」をつけ、自身の考え・哲学と専門性を軸として、他者と協力しながら（「コミュニケーション力」）社会の問題を解決しようと行動できる（「行動する力」）能力の養成が大切と思っています。

三重県における課題は、日本の課題でもあり、世界の課題に通じます。本学は、三重県を中心とした地域の課題に向き合い、それを地域の組織や皆さんと共に解決していく活動の中で、その時代に必要とされる学力、能力を持った人材を育成する地域共創大学として新しい時代の発展に繋がっていきたくと考

えています。今後の我が国が、今までの流れを変えて再び世界のトップの一員にもどれるか、それともこのままガラパゴス化して崩壊へと向かうのか、我々人材育成を担当する教育機関の責任も大きいと感じています。